

9/24 木

新型コロナウイルス感染症で入院した人のうち約10%は、退院から1年たった時点でも後遺症を抱えている可能性があるとの調査結果を、厚生労働省研究班がまとめた。中等症以上だった約700人を分析した結果、最も多い症状は筋力低下で、分析対象者全体会の7%ほどだった。京都市で開催中の日本呼吸器学会で23日、発表した。

症状の例	筋力低下	7.4%
呼吸困難	4.4%	
筋力低下	4.0%	
筋力低下	3.5%	
筋力低下	3.5%	
筋力低下	1.6%	
筋力低下	1.0%	

\*厚生労働省研究班による

研究班の代表で学部理事長の横山彰一・高知大教授(呼吸器内科)は、「時間がたつにつれて症状を訴える人の割合が減っている」としつつ、「一部の人には残っており、感染しないことが重要だ」と指摘した。感染対策の徹底とワクチン接種を呼びかけていた。

# 新型コロナ後遺症

## 退院1年後も10%

2020年9月～21年7月に新型コロナの中等症以上で入院した人を対象に、その後の状況を調べた。経過を把握できた693人のうち、退院の1年後も医療機関を受診し、後遺症の可能性がある症状が確認された人が9・8%いた。

主な症状別では筋力低下が7・4%、呼吸困難が4・4%、だるさが3

・5%だった。嗅覚異常は1・6%、味覚異常は1・0%で確認された。複数の症状を訴える人も見られた。

またCT検査のデータがある人のうち、1年後に肺に影が残る人は5・1%だった。

症状を訴える人々の割合は、今後データが追加されるごとに増える可能性があるという。

新型コロナウイルス感染症の後遺症 新型コロナウイルスに感染し、ある程度回復した後も数カ月以上続き、他の明らかな原因のない症状を残す。感染の早い段階から続くものや、途中から生じるものがある。罹患(りかん)後症状とも呼ばれる。だるや筋肉痛などの全身症状や、せき、息切れといった呼吸器症状のほか、記憶、味覚、嗅覚の異常などもある。日常生活に影響する例も出ていた。治療は主に対症療法で、ワクチン接種でリスクが減るとの報告もある。